

文部科学大臣賞

よんでんごじかんめ
『四・五時間目の「ま法」』

埼玉県さいたま市立仲町小学校 四年二組 男子 堀山 直浩

「先生、みなさん、おはようございます」
いつものあいさつで四年二組の一日が、今日も元気山もりで始まった。ぼくはこの元気いっばい「ニコニコ」いっばいの二組が大好きだ。けれど……この元気が一時間目、二時間目と過ぎてゆくにしたがってどんどんへってくる。おなかが入ってくるからだ。「ニコ」もへってくる。ささいなことで言い合いになったりする。おなかが入るとどんないい子でもイライラしちゃうんだ。そのころ元気になるのがおなかの虫たちだ。四時間目の半分を過ぎたころには、教室のあちこちで、グーッとカキユルルルなどにぎやかにおなかの虫が歌い始める。だれのおなかがあったのかは見えていく。すぐわかる。なぜならおなかの虫がいない子は一人残らずみんな、おなかを机の下でおさえて、とつてもわかりやすく周りをキョロキョロ見回すからだ。そういうぼくのおなかの虫も今日は絶好調に三時間目になるかならないかのうちになり始めたのはトッピングクレットだ。こんなほくたちの間で決まった合図がある。一時間目は指四本。二時間目なら指三本。三時間目には指二本。そしていよいよ四時間目になると指一本を立てておたがいニコリする。そしてむかえた四時間目終わりのあいさつ直後に〇本、つまりぼくらの両手はグーの形となって空にむかいつき上げられる。

「待ってましたー！ やーっ」と四・五時間目「教室中にうれしそうなお声が広がっていく。

四・五時間目、給食の時間はぼくらが一番、一番楽しみにしている時間。朝、眠くてふとんから出るのがいやな日も、苦手な小テストがある日も、休み時間にお友達とけんかしちゃった日も、四・五時間目の給食でとびつきりおいしいメニューをみんなでワイワイ食べていると悲しい気持ちやくやしき気持ち、イライラくんが給食のおかげでふっとんでいくんだ。けんかしていた子もおこつて横をむいているのがバカらしくなって、つい「おいしいね」「ほんとだね」とおたがい笑顔になって話はずむ。これは、きつと「四・五時間目の給食の『ま法』」のおかげにちがいないとぼくたちは思っている。だつてこんなにおいしい給食を食べながらプンプンおこりつつけるなんて、とてもじゃないけどぼくらには無理だ。

家に帰ってこのことを話すと、もう給食を食べられないお父さんもお母さんもおとも残念そうに、「もう一回でいいから給食のすてきな『ま法』」にかかつてみたいな」だつて。

四年生になって六時間目まである日が一気にふえた。だから家に帰る時間も去年よりおそい日が多くなった。でもぼくらはへっちゃらだ。四・五時間目の給食がおいしくて元気をたくさんとりもどせるからだ。「ま法」はぼくたちの強い味方になって守ってくれる。四本、三本、二本、一本、〇本……今日もぼくたちは指おり「四・五時間目の『ま法』」をみんなで「ニコ」楽しみに待っている。